

令和6年度 文京区立柳町小学校 授業改善推進プラン 4年

	育てたい力	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから選んだり、集めた材料を比較・分類したりして、伝えたいことを明確にして表現すること。 ・基礎・基本の学習を活用して「話す・聞く」力を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の意見やその理由」「条件に合わせた物事の説明」「事実と意見を分けた記述」など、目的に応じた「話す」「書く」活動に取り組むようにする。 ・主体的・対話的で深い学びを意識した授業を展開する。特に、読みの単元においては、考えを書いたり友達と話し合ったりする場を必ず取り入れ、考えを表現する時間の確保を心がける。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活の様子や仕組みなどの基礎的な事項を理解すること。 ・資料を読み取り、正しい知識を用いて、考察したり表現したりすること。 ・児童が主体となって学習課題について追及すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験や既習事項と比較したり、関連付けたりして理解が深まるよう授業を構成し、教材を工夫する。 ・グラフ、写真、表など視覚的に分かる資料を提示し、そこから何が読み取れるかについて視点を明確にして考えさせる。 ・「問題に気付く→学習課題を作る→計画を立て、学習問題を追及する→まとめる」という学習の流れを学習スタンダードとして、定着できるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・題意を正しく理解して立式したり、問題を解決した後、それが問題場面に合っているのか確認したりすること。 ・自分の考えを周囲の友達に、分かりやすく伝えようとしたり自分の考えと比べて聞き、意思表示したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の意味を確認し、文章題の場面を正しく表現できるようにさせる。また、解決できたら問題場面に当てはめて確認したり検算したりするように繰り返し指導し、解いたら確認するという意識を育む。 ・自分の考えに自信をもって発表することができるよう、少人数やグループでの交流を行ってから、全体交流の時間をもつ。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の結果から、結論を導き出すこと。 ・根拠を示して論理的に表現すること。 ・学習したことを日常生活に結び付けて考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題→予想→実験計画→結果→考察」の問題解決の流れが明確になるように、板書やノートをまとめられるようにする。 ・自分の考えをまとめる時間を確保し、言葉だけでなく絵、表、図で表現できるようにする。 ・身の回りの事象を、働きや時間などと関係付けて考えることができるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を工夫して各種の運動を楽しくできるようにすること。 ・協力、公正などの態度で運動に取り組むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体的な発言をもとにルールを変えたり、技能を向上させる方法を指導したりすることで、運動の楽しさを味わい、児童主体の学習となるように指導する。 ・準備・片付けの手順やルールの改善などで指導や話し合いが必要な際は、十分に時間を確保する。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値について自らすすんで考えたり、自分自身について振り返ったりすること。 ・友達と考えを交わした上で、それを自分の中でさらに考えを深めてノートに書いたり、表現したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1単位時間ごとの教材研究を十分に行い、児童が主体的に考えようとする発問・展開を準備する。 ・自分自身のことをじっくり振り返ったり、道徳的価値について考えを深めたりするために、時間配分に留意し、特に振り返りの時間を、十分に取るようにする。

総合	<ul style="list-style-type: none"> • 目的に応じて、様々な資料や方法で学習を進め、有効に活用すること。 • 適切に ICT を活用し、課題に対して追求すること。 • 相手に応じて表現を工夫すること。 	<ul style="list-style-type: none"> • 図書資料、新聞、インターネット、インタビューなどの基本的な利用方法や技能の指導を積極的に授業で取り扱う。 • 探究課題について知る場面や調べる場面、まとめる場面、深める場面それぞれで ICT を効果的に活用する。 • 伝えたい思いや発表する相手に応じて選択できるよう、発表方法を例示する。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> • 自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取ること。 • 学習した単語や構文を活用し、すすんで活動すること。 	<ul style="list-style-type: none"> • フラッシュカードなどから聞き取れるようにしたり歌やチャンツを通して慣れ親しんだりする。 • 動画教材の視聴や歌やチャンツなどに十分に慣れ親しませ、やり取りさせたい表現を絞った上で交流させる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> • 曲想と音楽構造の関わりに気付き、表したい音楽表現をするための技能を身に付けること。 • 音楽表現を工夫し、どのように表すか思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにすること。 • すすんで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら様々な音楽に親しむこと。 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業のねらいを明確にし、旋律、リズム、強弱、速度、音色などと曲想との関わりについて気付くようにする。一人ずつ聴く機会や発表方法を工夫する。また、互いの声や音を常に聴き合うことを意識するようにする。 • 音楽を聴いて感じたこと、気付いたことを基に、互いの思いを共有しながら表現の工夫につなげられるようにする。また、曲や演奏のよさを伝えるためにも言語活動を大切に、児童の発言を生かした言葉や曲想を表す言葉を掲示し、音楽的語彙を増やしていく。 • 互いに聴き合ったり、友達と合わせたりする楽しさを味わえる活動を増やす。表現、鑑賞の活動をバランスよく行い、生活と音楽の結びつきを意識できるようにする。器楽ではタブレット端末を使用し、個に応じた取り組みができるようにする。
図工	<ul style="list-style-type: none"> • 身近な材料や場所から、自ら造形的な活動を思いつき、表したいイメージをもったり、表し方の工夫を考えたりしながら手や体全体を動かし工夫を重ねること。 • 身近にある作品から、造形的なよさや表し方の工夫などを感じ、自分の見方や感じ方を広げること。 • 自分の表したいことを見つけ、主体的に表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> • 児童が活動しやすい場の設定を考える。個人でつくるだけでなく、友達と共同で行う造形活動も取り入れていく。 • 鑑賞の際、いくつかの視点を提示し、気付きを深め、お互いのよさを認め合うことができるよう指導にあたる。 • 発想の補助となるような資料やワークシートを適宜用意する。また、材料との出会い方の工夫をする。